

河川工事と

オランダ人技師

内務技監 市瀬恭次郎
工學博士

私が初めて工事を擔當したのは明治二十五年頃だつたと思ふ、静岡市に内務省の出張所があつて、其所で富士川の改修工事をやりました。當時の河川工事と云ふものはまことに幼稚なもので、工法と見て見るべきものは昔から日本特有の粹類や、抗シガラミ、其當時から盛んに用ひられた沈床等でありました。

沈床工事と云ふものは明治初年からオランダの雇技師が日本に来て初めて施工されたもので、それまでは日本に沈床工事はなかつた此の沈床工事は粗朶を材料とするもので、日本各地方の河川工事材料としては、其附近で得易い材料でもあり、工法も簡單であるから大に利用されました。總て工事用の材料は工事ヶ所の

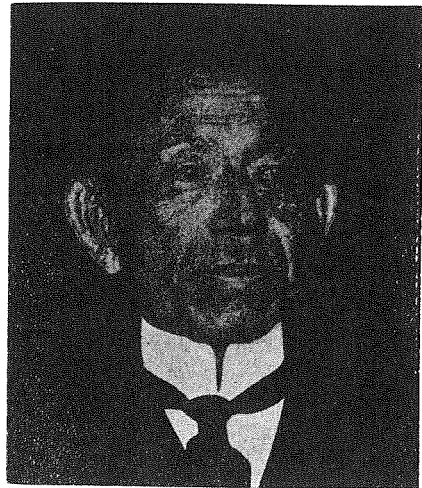
手近に得らるる

ものを使用するのが經濟の根本方針であるから現在に於ても此の方針に變りはありません、

オランダの技師は設計する人、工事をやる人、兩方面の人が日本に来て明治十八年頃迄も日本の河川工事に従事して居たと思ひます。オランダの國がヨーロッパの中でもローランドであるから水に關する工事技術は餘程進歩して居ました、それで日本へ招聘されたものでせう。此等のオランダ人の残した工事と云ふものは沈床が唯一のものと思ひます。尤も

オランダ人を

招聘された目的は水運を開くにあつたらしい大久保内務卿なごが東北開發に力を注がれてゐた時、福島、宮城、岩手の三縣を連絡する運河工事及びノビレ築港なごが着手されてオランダ人が皆此の工事を設計施工しました。



Dr. K. Ichise.
Imperial Domestic Affairs Dep't. Engineer.
工學博士 市瀬恭次郎氏

折角の此等の工事も其後に鐵道が發達したり又は地方的事情で水運利用の途を斷たれた様ですが、北上運河の石井閘門なごは今日も尙ほ残つてをります。

日本の河川と云ふものは藩政時代は山番を置いて嚴重に監督して治水の途も注意せられ沿岸の村民に歩役を命じて相當の設備もしてゐたが、明治維新後は一時非常に荒廢する様になりました。明治になつて政府事業として河川改修工事に力を入れる様になつたのは明治二十二年頃からだと思ひます。

私は曾て廣島の内務省土木出張所に居つた事がありますが、あの附近で

熊澤藩山や

野中兼山なごが幕府時代の治水に意を用ひた跡が残つてをるのを見た事があります、藩山は岡山城の要害たる朝日川の水を整理する爲めに百間川と云ふものを造りました。

兼山は伊豫の重信川の支流、表川の改修工事をして今日も其跡は残つてをります。此等の經世家が何れも治水と河川工事とに多大の努力を拂はれた事は日本の特種な地形に對する經世的な案をたてたものと思ひます。